

文法

主語・述語

今回の学習のポイント

- ① 文の基本構成 主語と述語
- ② 述語が意味を決める

文の基本構成 主語と述語

文を構成する要素として基本となるものが、「主語」「述語」です。

主語 || 述語が表す動作や状態、様子の主体を表す部分で、基本的に「○○が」「○○は」などの形で表されます。

述語 || 主語を受け、「どうする」「どんなだ」「何だ」と説明する部分です。

〈例〉

① 雨が 降っている。
主語 述語

② 雪も 降っている。
主語 述語

↓ 「○○も」という表現も主語にあたります（「降っている」ものは主体を表している）。

③ はげしい 雨が 一日中 降り続けている。
主語 述語

実際の文ではこの③の例のように、「雨が」を主語、「降り続けている」を述語とし、どのような雨なのかを説明する語（ここでは「はげしい」）が加えられたり、どのように降り続けているのかを説明する語（ここでは「一日中」）が加えられて、構成されていきます。これらの説明する語を「修飾語」と言います。

【発展】

「オウムが 話すなんて 考えられない 現実だ。」

複雑な構成になっていますが、細かく分類すると「話すなんて（話すなどということは）」が主語、「現実だ」が述語にあたります。一文を大きくとらえると、「話す」という動作の主体「オウムが」の部分を含めて「オウムが話すなんて」は主語としての役割を果たしています。このまとまりを「主部」といいます。そ

国語監修・執筆

中澤匠吾

して、どんな「現実」かを説明している「考えられない」という部分を含めて「考えられない現実です」は述語としての役割を果たしています。これを「述部」といいます。番組で確認してみましょう。

述語が意味を決める

主語、述語を文の基本構成と学習しましたが、次の会話文では主語、述語はどのようになっているでしょうか。

〈例〉

- Ⓐ 「昨日、どこかに出かけた？」
Ⓑ 「映画を見にいったよ。」

Ⓐは、「昨日、(あなた)どこかに出かけましたか？」という問いかけです。ここでは「出かけた」という述語に対する主語「あなたは」が省かれています。相手に尋ねているので、あえて「あなたは」「君は」などを示す必要がないのです。同様にⒷは、「(私は)映画を見にいったよ」という返答で、主語となる「私は」「僕は」などは示さなくても意味が通じるのです。「どうする」「どんなだ」「何だ」などの説明である「述語」部分がはっきりしていれば、文の流れから意味を解釈、理解することができます。言い方を変えれば、述語の内容によって文意が決定されるのです。

まとめ

文を構成する「主語」「述語」を正確にとらえるということは、書かれている内容の正しい理解につながります。

一方で実際の文や話し言葉などでは、必ずしも「主語」が含まれているわけではありません。前後の文脈から、主語を省略しても意味が通じるという場面は多々あります。その意味では、「述語」の部分が内容を伝える大きな役割を持っているということもわかります。

日ごろ何気なく使い、意思を伝え合っていることのちよつとした延長に「文法」が存在しています。「難しいもの」と構えすぎずに文法の学習にも向き合ってみましょう。

